

Interior Lifestyle Tokyo 2019

PRESS TOUR

インテリア ライフスタイルの会期中、7月17日（水）18日（木）の2日間、下記のスケジュールにて、プレスツアーを企画いたしました。会場を巡り、インテリア ライフスタイルに関わるディレクターや、テーマなどにあわせピックアップさせていただいた出展ブースの代表者やデザイナーより、作品や商材のコンセプトやものづくりについてなどお話をいただく内容となっております。ご興味ございましたら、ぜひご参加いただけましたら幸いです。

R.S.V.P.

ご希望の際は、【会社名・媒体名・お名前・ご連絡先・参加希望日】をご記入の上、**7月11日（木）までに info@dailypress.org**までお返事くださいますようお願いいたします。尚プレスツアーは、**各回12名（先着順・定員次第締め切り）**とさせていただきます。

【1日目】	【2日目】
日時：7月17日（水） 10:30～13:00（集合：10:25）	日時：7月18日（木） 11:30～13:30（集合：11:25）
定員：12名 ランチ付	定員：12名 ランチ付
*アトリウム内 CONER SHOP CAFE よりランチをご用意いたします。	*アトリウム内 CONER SHOP CAFE よりランチをご用意いたします。
10:25 プレスセンター集合（アトリウム内）	11:30 プレスセンター集合（アトリウム内）
10:30 <プレスツアー>	11:35 <プレスツアー>
1_アトリウム特別企画について アトリウムディレクター山田遊氏 /method	1_E&Y × 中山英之氏 (ファニチャーレーベル × 建築家)
2_MADE51（難民支援プロジェクト） プロジェクトリーダーハイディ・クリスト氏 /UNHCR	2_竹尾 × ドリルデザイン (紙専門商社 × デザイナー)
3_高岡屋（老舗布団メーカー）	3_IFUJI 井藤昌志氏（木工作家）
4_松野屋 代表 松野弘氏（暮らしの道具店）	4_FIEL × 西尾健史氏 × 岩元航大氏 (家具メーカー × デザイナー)
5_JAPAN STYLE について JAPAN STYLE ディレクター吉田龍太郎氏 /TIME & STYLE	5_双円 (プロダクトブランド)
6_長谷園 代表取締役 長谷 康弘氏（伊賀焼・窯元）	6_大蔵山スタジオ 代表取締役 山田能資氏 (石材メーカー)
7_Tunnel design（デザインユニット）	7_サンプルデザイン 「Ro Collection」 (デンマークのインテリアブランド)
8_flame 松永 裕詳氏（BBQ ギャブランド）	8_アトリエヨクト（デザインユニット）
9_TOMOKO 大澤 友子氏（バスケット作家）	
10_松葉畳店 × 秋山かおり氏（畳店 × デザイナー）	
12:40 ランチ KICHEN LIFE より出展者プレゼンテーション	13:30 ランチ KICHEN LIFE より出展者プレゼンテーション
13:00 終了予定	14:00 終了予定

PRESS TOUR 1 日目



MADE 51

www.made51.org

ゾーン：GLOBAL A-41

2016年にUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が設立したMADE51は「難民に持続可能なビジネスチャンスと生活を提供すること」を目指したプロジェクト。今まで各国・地域で独自に行われていた難民による手工芸品の制作・販売活動をMADE51というブランドで統一したことが、このプロジェクトの大きな特長。現在13カ国・11の団体とパートナーシップを組んでおり、「難民が作った」モノではなく「顧客が欲しい」モノを生み出すことにこだわった、選りすぐりの商品だけがラインナップされている。



高岡屋

京都

www.takaoka-kyoto.jp

ゾーン：HOME C-20

1919年創業の(株)高岡が、代々受け継いできた座布団、布団作りの技で作り上げたブランド「洛中高岡屋」は、日本の暮らしに沿った寛ぎアイテム「寛具」を、一点一点職人の手で仕立てている。靴を脱いで床でくつろぐのは日本人ならではのスタイル。そのキーアイテムの座布団は、現代のインテリアや、海外から訪れる方々にも合わせ、高さのある座りやすい形状に。「おじゃみシリーズ」は、4枚の布で仕立てるお手玉(=関西でおじゃみと呼ぶ)の形をモチーフに、フロアでどんと腰掛けていただく小型のソファの様な仕様。海外客が増えている近年の宿泊施設からも高く評価されている。ロットがなく、1点からのセミオーダーや別注も可能。



松野屋

東京

matsunoya.jp

ゾーン：EVERYDAY E-06

松野屋は1945年創業、現在は自然素材を中心とした生活道具をあつかう荒物問屋。荒物とは、ほうき、ちりとり、ざるなど、簡単なつくりの日用品や道具のこと。松野屋では、国内やアジアの町に直接足をこび、町工場や閑散期の農家などで作られる日用品などを仕入れると同時に、生産者とともに今の時代のニーズにあったオリジナル商品の開発を行う。今回、ベトナムや韓国などで買い付けた、各地の生活からの中から生まれた日用品や道具と共に、現代の暮らしに合わせて企画、開発したオリジナルの割烹着などを展開予定。



長谷園

三重

www.igamono.co.jp

ゾーン：KITCHEN LIFE F-03

太古の昔、琵琶湖の湖底だった伊賀の地。その地層から採れる陶土は炭化した微生物や植物を多く含み、高温で焼くことで細かい気孔ができるため、遠赤外線効果と蓄熱力の高さが特徴。食材の芯までじっくりと熱を伝え、旨みを逃さず美味しく仕上げることから、伊賀土鍋は、民具として長い歴史を持つ。その地で1832年創業した伊賀焼の窯元「長谷園」は、常に時代を見据えたものづくりを展開。今回開発した「土鍋焙煎ポット」は、土鍋ならではの遠赤外線効果でコーヒー豆を焙煎。自宅で気軽に好みの焙煎を楽しむことを提案。コーヒー焙煎工房IFNi ROASTING & CO.が開発したオリジナル器具をセットで展開。



flames

愛知

flames-jp.com

ゾーン：MOVEMENT I-07

80年以上の歴史を持ち、金具ひとつから自然エネルギー事業まで対応する工業製品加工会社ナガサキ工業が、2018年に自社の鉄加工技術を活かして立ち上げたアイアンBBQギアブランド「flames」。ブランドの中心アイテムとなる「ロースタイルBBQグリル」は、囲炉裏を囲んで語る日本人のアイデンティティから着想し、火を囲むことで人と人との距離を縮め、食材が焼きあがるライブ感とそこに溢れる会話を楽しめるような設計に。シンプルでスタイリッシュなデザインながら、様々な機能が組み込まれている。ファクトリーブランドならではの技術によって、熱が加わった時に変形しないような構造や材料選びが特徴。



TOMOKO

東京

prome-garden.com

ゾーン：ACCENT G-06

『TOMOKO』はバスケット作家の大澤友子が、アメリカ東海岸ナンタケット島発祥の伝統あるナンタケットバスケットをベースに、モダンな意匠と日本独自のミニマムな美意識を反映させてつくるコンテンポラリーバスケットブランド。2009年以降、定期的にナンタケット島を訪れ歴史や技術を学び、材料を仕入れ日本、アメリカで制作しています。バスケット一つの制作にいくつもの工程があり、すべて手作業で製作するため二つと同じものはありません。今回はジュエリー作家 石渡明子(Stitch)や、漆職人など日本の伝統工芸に携わる作家とのコラボが実現。ランプシェードの新作バスケットも発表予定。



松葉畳店

静岡

www.matsubatatamiten.jp

ゾーン：NEXT G/N-28

1977創業した松葉畳店。日本家屋の欧米化により畳の需要が激減している現代に、畳の香りや心地良さを知るきっかけづくりとして、5年前よりスタートした雑貨事業部。イ草の吸湿効果など特性を生かし、現代の生活に寄り添う小物やインテリア雑貨を提案している。本展では、イ草生産者や職人が激減してゆく背景を考慮し、プロデューサーに日原佐知夫、デザイナーに秋山かおりを迎え、生産者や職人と共に、通常、廃棄となる短イ草を用いて、インテリアにアイテムを開発。草花や枝葉を生けるように手軽に、い草を差し替えることで新しい空気をインテリアに取り込む、Vase/Partition『TATTE』を発表。



tunnel design

神奈川

www.tunneldesign.co.jp

ゾーン：TALENTS I/T-01

仲野 耕介と河上 真理によるデザイン事務所。感情、環境などといった曖昧な事象に輪郭を与えることで、人々がより幅広い物事を共有できるような、新しいコミュニケーション手法を設計することを目指し、内装設計、家具/什器/プロダクトのデザイン、製作、デザインディレクション等幅広く手がける。「家具、人、流通の関わり方」を再考するプロジェクトKANAMEから、ユーザー自ら組み立てられ、必要なポイントで光源を保持できる機能的なデスクライト"task"をはじめ、接合金物により45度に開いた脚がデザインの特徴となる"table"、H型モジュールを積み上げ、金物で結合することで無限に増やせるセルフシステム"H"などを発表。

PRESS TOUR 2日目



E&Y
東京
www.eandy.com
ゾーン：アトリウム S-43

世界中のデザイナーのデザインやアイデアをリソースに、家具やオブジェクトの編集と開発、製作、販売を行うE&Y。今回は、建築家、中山英之によるハート型のオブジェ「CONCRETE HEART」を発表。はじまりは、中山の親しい建築家ら主催による東日本大震災被災地支援チャリティバザーのために、事務所にあった材料だけで即興的に制作されたものだった。そこから多くの時間が経て現在、強い建築や街を作るコンクリートだが、人のハートよりも強い材料など存在しない。という想いをそのままに、当時よりも少しだけ柔らかい質感と表情で制作。本棚の端や扉の角や、そして自分自身のハートに、日々の暮らしのなかでちょっとした「重し」が欲しいときに。



竹尾
東京
www.takeo.co.jp
ゾーン：アトリウム S-01

1899年の創業以来、紙の専門商社として「ファインペーパー」の開発と提供を行う竹尾。紙×デザイン×テクノロジーをキーワードに、既存の枠組みにとらわれない製品開発を行っている。昨年開催した竹尾ペーパーショウにて、9名のクリエイターと「精度」をテーマに展示を開催。その中で、デザイナー DRILLDESIGN、藤城成貴と共に発表した展示より、2つのマテリアルを新事業としてスタート。本展では、新事業として動き出した、梱包資材の機能と、豊かな色と美しさをあわせ持つ「ファインフルート」と、厳選した原料を使用した、これまでにない色鮮やかなパルプモールド「ファインモールド」を紹介。



IFUJI
長野
laboratorio.jp
ゾーン：アトリウム S-18

2003年より長野県松本に工房を構え活動する木工作家、井藤昌志。IFUJI BOXMAKERのブランド名で小物や家具、食器を製造販売を行う。2019年より家具と食器を集約した新たなブランドIFUJIをスタート。道具としてのスティックさにミニマムな美しさを兼ね備えた独自の世界観と、日本古来の草木染を応用した木材染色など、伝統的な技法を用いて細部まで丁寧に作り込まれたクラフト作品を生み出している。今回は主にテーブル、椅子、食器棚など家具を中心に作品を発表。



双円
東京
www.soen-japan.jp
ゾーン：JAPAN STYLE D-16

日本のものづくり力や美しい文化を届けていく新しいプラットフォームとして、2018年にスタートした「双円。」ブランドを共有する”という新たな試みで、共通のデザイン、販路、ブランディングを異業種・異素材でシェアする形で素材を知り尽くしたスペシャリスト等と協業。スタート時から参画する錫の「能作」、ガラスの「Sghr」、陶磁器の「NAGAE」に続き、今回新たにステンレスの栄作工房が参画。二つの円を重ね合わせた共通の形でワインクーラーを発表する。双(so)はふたつ、円(en)はまる。ブランドを象徴するかたちを表現しながら縁を創る「創縁」、円を奏でる「奏円」など一つの解釈にとどまらない広がりやつながりの意味が込められている。



大蔵山スタジオ (株)
宮城
okurayamastudio.com
ゾーン：MOVEMENT I-03

1887年創業。宮城県南部に位置する大蔵山で5代に渡り伊達冠石の採掘、加工を行う。暮石や建材のみならず、アートプロダクトや建築製品などでの活用が広がっている伊達冠石の魅力をより広げべく、石の表情や石のもつ内面的な力を感じられるような生活に身近な石製品の企画開発、提案を行なっている。本展では、伊達冠石を用いたドアハンドルシリーズを発表。石のもつ 自然の無垢の表情の美しさや、内面的な力強さを現代のライフスタイルの中で提案する。



(株) センプレデザイン
東京
www.sempre.jp
ゾーン：MOVEMENT I-11

センプレデザインから、日本初上陸となるデンマークのブランド「Ro Collection」を発表。「Ro」は、デンマーク語で、「静けさ」「落ち着き」「心の安らぎ」を意味し、クラフトマンシップ、品質、そして、静けさへの愛に根ざしたデザイン会社「Ro」によって2013年に立ち上がったブランド。耐久性に優れた素材を使用し、何年、何世代と使用できる商品へのこだわりをもつ。本展では、「Ro Collection」のアイテムを一堂にラインナップ。



アトリエヨクト
山梨
www.a-yocto.jp
ゾーン：NEXT G/N-44

南アルプス・白州にアトリエを構え、人それぞれが工夫して使い込める余地のある道具や家具のデザイン・制作を行うアトリエヨクト。最小単位である“yocto”。より小さな部分はより大きな全体と相似形をなすフラクタルの概念のように、最小の単位である意識、つまり“原因の世界”をデザインすることを目指し活動。今回、日本で料理などを運ぶ道具として使われてきた「岡持ち」。このシンプルで便利なハンドル付きの箱を、現代の生活に合った仕様、モジュールでデザインした「OKAMOCHI (オカモチ)」を発表。料理を詰めてピクニックへ、日常のティータイム時、または仕事や趣味の“運べる道具箱”として、使う人それぞれに合わせカスタマイズが可能。



FIEL
福岡
fiel.jp
ゾーン：アトリウム S-08

福岡で創業80年以上の歴史をもつ家具メーカー MARUSO が、質の良い素材を組み合わせて、自由でクリエイティブなデスクを提案するデスク専門ブランド【FIEL】。今回はデザイナー・西尾健史の新作“BUMP”と新たにデザイナー岩元航大を迎え、ハイテーブル“KD”を発表。“BUMP”は、無垢の角材とスチールとの組み合わせで作られており、使い方を限定せず、置き方次第でローテーブルやサイドテーブル、マガジンラック、ツールなど色々な用途で使用出来る多様な家具。“KD”は、空港の待合所からオフィスまで様々なシーンに柔軟に対応する、木製家具の持つ美しさに拘ったフォルムと機能性のバランスにこだわったハイテーブル。